

令和 4 年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立狛江高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭（総務部主任兼務）＝事務局長 1 名、及び事務局員 1 名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務部主任）、主幹教諭（生徒部主任）、主任教諭（進路部主任）、主幹教諭（総務部主任）、主幹教諭（第 1 学年主任）、主幹教諭（2 学年主任）、主幹教諭（3 学年主任）、計 1 0 名
- (4) 協議委員の構成
地域代表（大学教授）、地域代表、近隣中学校長（2 名）、同窓会等代表、PTA 代表、学識経験者（3 名） 計 9 名

2 令和 2 年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第 1 回～3 回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第 1 回 令和 4 年 6 月 2 9 日＜出席者＞ 内部委員 1 0 名 協議委員 7 名
教育活動報告。協議委員委嘱。協議委員紹介。評価委員の選出。
令和 3 年度学校経営報告。令和 4 年度学校経営計画。
本校の現状と課題等説明。
 - 第 2 回 令和 4 年 1 1 月 1 6 日＜出席者＞内部委員 1 0 名 協議委員 6 名
令和 4 年度上半期学校経営報告。教育活動報告。学校評価の内容検討。
アンケート項目の検討。
 - 第 3 回 令和 5 年 2 月 8 日＜出席者＞内部委員 5 名 協議委員 5 名
教育活動報告。令和 4 年度下半期学校経営報告。学校評価のアンケート結果の分析結果報告。評価委員長から学校長への提言。
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第 1 回 令和 4 年 1 1 月 1 6 日＜出席者＞ 内部委員 1 0 名 協議委員 6 名
学校評価の基本方針の確認。昨年度の学校評価結果の分析・考察。
今年度の学校評価の内容。実施時期、評価の観点に向けた検討。
 - 第 2 回 令和 5 年 2 月 8 日＜出席者＞ 内部委員 5 名 協議委員 5 名
アンケート集計結果の分析・考察。課題の整理。評価報告書の検討。
分析による次年度の課題等の提言内容の検討。

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

（1）学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で評価する。

（2）アンケート調査の実施時期・対象・規模

12月実施 生徒抽出 953人、回収 876人、回収率91.9%

保護者抽出953人、回収 231人、回収率24.2%

教職員59人、回収50人、回収率84.7%

狛江市中学校3校、回収3校、回収率100%

地域20人 回収0人、回収率0%（感染症流行の為、回収はできなかった。）

（3）主な評価項目

- ・ 学校生活、学習指導、生活指導、進路指導、部活動、国際理解教育、自己理解（進路実現への努力）等。

（4）評価結果の概要

【学校生活全般】(Q1,2,3)

肯定的な意見が9割を超えており学校生活全般についての満足度は高い。これは部活動や友人関係が充実していることと相関していると考えられる。半面授業や補習授業については否定的な回答が多く授業改善の余地を多く残している。また行事についての満足度も低くこれはコロナ感染症の影響で行事がオンライン等で行われるなど例年と異なり生徒が期待していたイメージと大きく異なってしまった結果といえる。しかしながら保護者の満足度が昨年と比べ大幅に上昇していることは、本校の教育活動についてある程度の高い評価を反映しているものである。

【学習・授業】(Q4,5,6)

学習については、ほとんど学習していないや30分未満が1年生で40%、2年生でも37%になるのは大学入試を考えるうえでかなり課題がある。日常的な学習について改善が望まれる。昨年は3年生授業満足度が大きく改善が見られたが、今年度は再び満足度が低下した。

【委員会活動】(Q7)

委員会活動については1,3年生では肯定的な回答が9割に達しているが、2年生については大幅な減少がみられた。これはコロナ感染の影響で本来リーダー格として最も期待されている2学年が自らの期待する活動が行えず不満を感じていることの反映であろう。オンライン体制を更に充実させることが一層望まれる。

【体罰・いじめ・悩み】(Q8,9,10)

体罰、いじめ等における学校の対策や対応についてはおおむね高評価を得ていることから、生徒が安心して生活をしていることが伺える。個人的な悩みを相談する先生については見つけることが難しいようである。教員間で情報を共有することでできるだけ具体的に対応できるような体制づくりが必要。

【制服・頭髪・校則・スマホ利用】(Q11,12,20)

生活指導上の課題について、全学年スマホの使用時間が1日3時間以上の生徒が30%を超えたことはデジタルメディアが相当程度高校生の生活に浸透していることを示すものである。しかしクラッシーによる連絡やオンライン授業などを視聴している生徒も多いと予想できる。

【進路・塾】(Q13,14,15)

進路体制にはおおむね生徒は満足しているようである。1, 2年生で塾・予備校に行く人数も多くなっているが、前述の本校の学習対応（授業、補習）に対して不満の連動が考えられる。自ずと、本校の進学指導の在り方が問われている。

【働き方改革】(Q16)

働き方改革については今年度初の項目であるが、認知度は生徒、保護者ともに9割に達しており社会に浸透していることが考えられる。

【コロナ対策】(Q17)

学校の感染症対策についても高い理解が得られているが、不満や不安を抱えている生徒もある程度おり、安心安全な学校生活を保障するためにも一層の充実が求められる。

【オンライン教育】(Q18,19)

本校ではオンライン教育のツールとしてベネッセのクラッシー、マイクロソフトのチームズを使用しているがこの3年間で相当程度浸透してきている。配布物等をオンライン化することも6割以上の生徒が望んでおり今後もこの傾向が増加していくものと考えられる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒及び保護者へのアンケート結果より、学校生活への充実感及び期待が高いことを把握できた。
- ・生徒の授業満足度や学習時間、携帯電話等についてのアンケート結果から、授業以外の放課後や自宅での学習時間の確保する必要があることがわかった。また、教員の授業力向上と授業改善に向けた取組をより一層推進していく必要性が再認識した。
- ・協議委員による様々な意見を学校経営に生かすことができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・保護者、地域、近隣中学校等からの本校への関心・期待が高く、教育活動をより一層充実させていくことが必要である。しかし、今年度は感染症のこともあり、地域からはアンケート結果を得ることはできなかった。
- ・新学習指導要領を見据えた教育活動や大学受験を意識した講習や補習の充実を図り、部活動の

活動時間を適切に設定し、学業と両立する為の工夫が必要である。

- ・感染症対応に伴って延期や中止をした国際交流や修学旅行等の学校行事の代替としての取組は効果が高かった。本年度の取組を活かした実践を次年度以降も継続させることが必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・本校の教育活動の情報発信を更に進めることで、保護者や地域からの理解や協力を得ることが重要である。特に個人情報の取扱いには教職員全体で十分留意し、感染症防止対策についての取組等、保護者に適切に情報提供を行っていく。
- ・保護者、地域、その他の関係機関との連携を深め、教育活動のより一層の充実を図る。
- ・本校のグラウンドデザインに基づいた新教育課程の適切な実施と、感染症防止対策を講じた学校行事の実施等、教育活動の活性化について検討をしていく。

(2) 学習指導

- ・土曜講習及び長期休業日中の講習・補習を校内で組織的・計画的に実施することにより、生徒の学力向上を図る。その際に、講習動画を教材保管庫にアップロードする等、生徒の家庭学習を支援する取り組みを強化する。
- ・教員相互の授業参観や研究授業を活用しながら授業力向上を図る。また、校内研修を組織的に計画しながら実施していく。
- ・授業後の課題の他に、週末課題等を工夫して実施することで、生徒の自宅学習時間を増やし、基礎学力の定着・向上を図る。

(3) 特別活動

- ・感染症防止対策を講じながら、学校行事や部活動において生徒の主体性を育んできたが、協議委員の意見も参考にしながら、今後はより一層の充実を図る。
- ・部活動の活動日や活動時間の見直しも引き続き検討していく。
- ・防災教育の充実を地域と連携して図る。

(4) 生活指導

- ・「あいさつの励行」「規範意識の向上」「ルールやマナーの遵守」等の指導を学校生活のあらゆる場面で今まで以上に指導・実践する。
- ・「チャイム即授業」を徹底させ、時間を守る習慣を育成する。
- ・スマートフォンや携帯電話の利用方法、利用時間等についても指導していく必要がある。
- ・校則の見直しについては、生徒や保護者と共通理解を図る。

(5) 進路指導

- ・大学入学共通テストの受験に向けて、成果と課題を明確にしながら対応する。
- ・進路部と各学年が密に連携し、1年生から3年生まで系統的、かつ組織的・計画的な進路指導を充実させる。
- ・長期休業日中の講習や日常的な補習等を充実させ、生徒の学力向上を図る。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 5人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多分そう 思う	どちらと も言えな い	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	分からな い	無回答
5						

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 なし 企画調整会議 なし

【成果】 内部委員による報告等により職員へ周知した。委員の意見を参考に、目指す学校像に基づく教育活動の充実化に向けて改善することができた。

8 その他

- ・学校評価アンケートの回収方法を検討し、回収率を上げていく。
- ・学校評価アンケートの内容をさらに精査・分析し、学校経営に生かしていく。
- ・質問項目、文言等を検討し、考察しやすく、課題が明確になるようにする。